

# 農 研 速 報

平成 25 年 10 月 2 日発行  
 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室  
 〒301-0816 茨城県龍ヶ崎市大徳町 3974  
 TEL 0297-62-0206 FAX 0297-64-0667

作物名（大豆）

県 名	生育ステージ		生育の状況	問 題 点	これまでに講じた対策 及び今後の方針
	本 年	平年対比			
茨 城 県 (龍ヶ崎市)	タチナガハ 粒肥大期	平年並	<p>8 月第 6 半旬から 9 月第 6 半旬 (26 日まで) の気象概況は、平年と比較して日平均気温が 0.3℃高く、日照時間は平年比 109%、積算降水量は平年比 90%であった（龍ヶ崎アメダスデータ。平年値は直近 5 ケ年の平均値）。</p>	特になし	<p>●紫斑病および莢害虫の防除を計 4 回実施した。</p> <p>○適期収穫を実施する。</p>
	納豆小粒 粒肥大期	平年並	<p>生育は平年と比較して以下のとおりである（表）。</p> <p>タチナガハは主茎長が長く、主茎節数は多く、分枝数および茎の太さは平年並で、地上部生体重は平年比 117%と重い</p> <p>納豆小粒は主茎長が長く、主茎節数および分枝数は多く、茎の太さはやや太い。地上部生体重は平年比 111%と重い。</p> <p>着莢の状況は、タチナガハの一株莢数は平年比 80%と少ないものの、一莢重は平年比 160%で、一株莢重は平年比 125%と重い。納豆小粒の一株莢数は平年並であるが、一莢重は平年比 130%で、一株莢重は 112%と重い。</p> <p>現在の生育は図（次ページ）のとおりである。</p>		

表 1 生育診断調査(9月26日調査、播種後98日)

品種	開花期			主茎長			主茎節数			分枝数			茎の太さ		
	本年 (月日)	前年差 (月日)	平年差 (月日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	8月1日	-5 (8月6日)	+1 (7月31日)	71.4	144 (49.6)	131 (54.7)	14.7	110 (13.4)	109 (13.5)	4.3	88 (4.9)	102 (4.2)	10.9	103 (10.6)	104 (10.5)
納豆小粒	8月6日	-4 (8月10日)	-1 (8月7日)	85.8	119 (72.1)	119 (72.3)	17.9	113 (15.9)	110 (16.3)	8.0	89 (9.0)	118 (6.8)	11.8	110 (10.7)	108 (10.9)

品種	地上部生体重			一株莢数			一莢重			一株莢重		
	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g/莢)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	316	84 (377)	117 (270)	72	61 (118)	80 (90)	1.76	176 (1.00)	160 (1.10)	118.9	101 (117.5)	126 (94.3)
納豆小粒	350	92 (382)	111 (315)	242	91 (265)	97 (249)	0.52	98 (0.53)	130 (0.40)	116.2	83 (140.6)	112 (103.4)

試験場所: 農業研究所水田利用研究室内圃場(龍ヶ崎市、中粗粒灰色低地土)。

( )内は前年値又は平年値。平年値は平成19年～23年(5カ年分)のデータの平均値(平成24年は天候不順により播種期が7日遅れたため除外)。

茎の太さ: 第1節(子葉節)と第2節(初生葉節)の中間で最も太い部分を測定した。

耕種概要: 6月20日播種、11.1株/㎡(畦間60cm×株間15cm)1本立て、施肥量; N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O: 0.3-1.2-1.2(kg/a)



図1 農研水田利用研究室圃場における生育状況(9月26日撮影)

播種日: 6月20日、栽植密度: 11.1株/㎡(畦間60cm×株間15cm)1本立て、施肥量(kg/a): N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=0.3-1.2-1.2